

（分担）研究報告書

ドメスティック・バイオレンスを体験した子どもたちに対する 心理教育用パンフレット作成の試み

分担研究者 後藤晶子

国立肥前療養所 家族精神医学研究室 室長

1. 夫・恋人から暴力被害を受けた女性の子どもに対する心理教育用パンフレットの現状をインターネットで調査した。またドメスティック・バイオレンスの体験が子どもに与える影響を文献的に調査した。
2. 上記の調査に基づき、ドメスティック・バイオレンスを目撃した子どもたちに向けての心理教育用パンフレット（案）を作成した。

問題

ドメスティック・バイオレンス（夫や恋人から女性が受ける暴力：以下 DV）の元で生活する子どもたちの問題が小さくないことが明らかとなり、ネグレクト、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待に次ぐ5番目の児童虐待の形態として取り扱われることとなった。DVを体験することそのものも子どもの心身の発達に大きな影響を与える。また、DVは親が子どもを養育する機能にも影響を与えていると考えられ、両親がその役割を十分に果たせないためにますます心理的な問題を呈しやすくなる。

欧米の研究では、DVを経験した子どもたちについてどのようなことが明らかになっているだろうか。イギリスでは1975

年に Levine（医師）と Moore（ソーシャルワーカー）が DV を経験した子どもたちに関するそれぞれ別の調査を報告した。い

ずれも、攻撃的な行動、不安性障害、不眠、無断欠席が多いことを報告している。その後1980年代までは研究が少なかったが、1980年代半ば過ぎからこの分野に関する研究が少しずつ増え、とくに1990年代後半から retrospective、prospective な研究や発達への影響に関する研究が非常に増えた。

臨床的には、DVを体験した子どもは不服従や攻撃性や不安や抑うつという問題を見せる（Holden & Ritchie, 1991）、長期的にも DV を経験した子どもたちは、抑うつや低い自己評価などの問題を持つ（Silvern, 1995）、母親がシェルターを出て数ヶ月後の時点でもその子どもたちには勉強に関する問題があった、シェルターを出て6ヶ月後には母親の子どもに対する攻撃性も子どもの行動上の問題も減少していたが、行動上の問題が多かった子どもは、あまり改善していなかった（Holden, et al 1998）。また、約1年間シェルターを出た子どもと地

域の子どもについて追跡調査をした結果、トラウマと関連した症状や行動上の問題は、追跡調査時点ではDVを目撃した全ての子どもたちで改善していたが、DVを経験していない子どもたちよりも劣っていることを見いだした(Rossmann, 1998, 1999)、などの知見が知られている。

認知機能のうち注意に注目した研究では、DVを体験した子どもたちの注意のレベルは低い事が知られている。その子どもたちに男性と女性の攻撃的な関係のビデオを見せた後では、注意と学習が改善し後の記憶は悪くなる事が明らかになっている。

対人関係においては、幼少時のDVの経験は、用心深く敵対的であり、他者に否定的で攻撃的傾向を持ち、愛着スタイルが回避型または不安/葛藤型であること、現在のパートナーとの関係が互いに攻撃的である事と関係していた(Wolfe, et al, 1998)。愛着スタイルは大きな外的要因がなければ思春期、青年期を通じ変化しないと考えられており、回避型または不安/葛藤型は安定型の愛着スタイルに比べ、社会的な関係を作りにくいと言われている。

DVを体験した子どもたちに見られることが多い問題を別表に示した。(資料1参照)。

DVから逃れてきた子どもたちに対する介入研究が、現場の要請として行われるようになった。シェルターでは母親と共にDVから逃れてきた子どもたちに対し、それぞれ独自のサポートプログラムを持っている事が多かった。それらを洗練させ前後の評価を行う介入研究が行われるようになったのは、1980年代からである。1990年代後半から比較対照群やフォローアップを行った研究が多くなる。これらの介入研究によると、それぞれのプログラムは子どもの攻撃性を低下させたり、対人関係の葛藤を減少させたり、社会的な行動を増やした

り、情動の安定化が見られるなど、概ね肯定的な結果が得られている(Graham-Bermann, 2001)。

日本の現状は欧米に対してどうなっているのだろうか。平成13年10月に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、各県に配偶者暴力相談支援センターが定められ、一時保護が行われるようになった。平成13年度は3907件に上っている(厚生労働省実績評価書2002)。また、DVの実態についての調査も平成11年から継続して行われ、平成14年の調査では「身体的な暴行が何度もあった」と答えた女性は4.8%であった。またこの調査では18歳になるまでの家庭における暴力の経験も尋ねており、「父が母に暴力を振るっていた」にあてはまると回答した人は、女性12.2%、男性16.4%であった(内閣府2002)。すなわち、約1割以上がDVを体験した子どもであったことが分かり、非常に多くの子どもに影響を与えていると推測できる。

日本のDVを目撃した子どもたちに対する介入や研究は、このように問題の広がりが増えつつあるにもかかわらず、まだ緒についたばかりである。現状ではDVを体験した子どもたちに対する支援は、一時保護所に逃れてきた時点で子どもを評価して、行動に異常があったり虐待の存在が疑われたりするならば児童相談所へ紹介する事が多いと考えられる。しかし、すでに逃れてきた子どもたちよりも、現在DVにさらされている子どもたちに対する支援のニーズはより緊急度が高いと考えられる。それに対し、児童相談所は狭義の児童虐待特に身体的虐待やネグレクト、性的虐待などの重度な虐待への対応だけで処理能力の限界に近づきつつあり、DVを体験した子どもたちへの支援が十分であるとは言い難い。子どもたち自身に直接DVについての情報

を伝えるパンフレットを作成することは、子どもたちの支援に非常に意義があると考えられる。

目的

このような日本の現状を踏まえ、本研究では、誤った知識や考えに基づく感情（強い孤立感、絶望感など）を和らげ、対処法を教示し、自らもセーフティ・プランや相談の計画を立てられるようにし、これらの行動によって自己評価を高めるための、子どもたちへの心理教育用パンフレットの原案を作成する。

第1に、すでに公開されているDVを体験した子供向けへのパンフレットの現状（数および内容）を調査し、これまでの研究と共通する内容を明らかにする。第2に、その調査結果に基づき日本版の子供向けパンフレットの原案を作成する。子どもの年齢によって理解できる内容に差があると考えられ、今年度は小学校4～6年生程度を対象としたものを作成する。

調査および結果：

インターネットによる調査：日本のHP検索サイトから（ドメスティック・バイオレンス 子ども パンフレット）という検索語、アメリカおよびイギリスで（domestic violence, children, pamphlets or brochures）という検索語でHPを検索し、web上で提供されているドメスティック・バイオレンスを体験した子どもたちに対するパンフレットの内容を調査した。

日本のインターネット上には、子どもを対象としたパンフレットは存在しなかった。子どもの周囲の大人（親、先生など）に向けたパンフレットがあった（女性のためのアジア平和国民基金 2001）。

アメリカおよびイギリスのインターネット上でも、子どもを対象としたパンフレッ

トを見つけることができなかった。大人向けのものが多く、共通する内容はDVにさらされている子どもたちの推定数、子どもがDVによって受ける影響（学校での不適応、攻撃性、身体的な問題、恐怖と心配、緊張、抑うつ、食事や睡眠の障害、依存性、引きこもりなど）や対応（子どもの安全を確保する、子どもの話を批判的にならずに注意深く聞く、子どもが感じている感情を確かめる、DVは子どもの責任ではないことを保証する、だれもが安全に暮らす権利があることを伝えるなど）を書いたものが多かった。

また、子どもたちのDVの体験と関連した感情としては、悲しみ、恐れや不安や恐怖、怒りをあげるものが多かった。子どもたち自身の対処としては、その場では暴力の場を離れること、介入すること、助けを呼ぶこと、兄弟姉妹を守ることが挙げられ、DVが持続する生活に対する対処としては、誰かに話す、親戚や友人の家庭に行く、落ち着ける自分の場所を探しておく、公共機関に相談するなどがあった。

DVを目撃した子供向けのパンフレット原案の作成：上記の調査に基づいて次の各項目の要素を含むパンフレットを作成した。パンフレットの原案は、補足資料として添付した。

- ・DVは少なくないことを示す
- ・DVの責任は子どもにはないことを示す
- ・DVがあっても子どもは両親から関心を持たれていることを示す
- ・セーフティ・プランをいくつか示し、自分のセーフティ・プランを立てさせる
- ・DVについて誰かに話すことを勧める
- ・気持ちのコントロールをする具体的な方法をいくつか示し、自分の対処法を

考えさせる

残された課題

今回の研究で残された課題は主に次の4つである。第一に、本研究の子供向けパンフレットの調査がインターネットを通じた限られたものであるため、女性の一時保護を行っている公的あるいは民間のシェルターが独自に持っている、DVを経験した子どもについてのパンフレットを調査する必要がある。第2に、今回のパンフレット作成は、まず小学校4年から6年程度を対象としたため、他の年齢層、を対象とした改訂版を作成する必要がある。特に低年齢層ほどDVの影響を強く受けると考えられるが、一方理解の程度も限られるため、かなりの改変を要するものと考えられる。第3に、実際にこのパンフレットを子どもたちに提供し、改訂していく事も必要である。第4に、このパンフレットを読む子どもの母親に対する心理教育用パンフレットも必要と考えられる。今後継続した研究を行う必要がある。

【文献】

女性のためのアジア平和国民基金

(2001)ドメスティック・バイオレンス
子どもをサポートするために

Graham-Bermann, S. A. (2001)

Designing intervention evaluations
for children exposed to domestic
violence: Applications of research
and theory. In Graham-Bermann, S.
A., Edleson, J. L. ed. Domestic
violence in the lives of children.
American Psychological Association.
pp237-267

Holden, G.W., Geffner, R., Jouriles, E.

N. (1998) Children exposed to
marital violence: Theory, research,

and applied issues. American

Psychological Association

厚生労働省政策統括官付政策評価官室

(2002) 実績評価書

McGee, C. (2000) Childhood

experiences of domestic violence.

Jessica Kinsley Publishers

Mullender, A., Hague, G., Imam, U.,

Kelly, L., Malos, E., Regan, L. (2002)

Children's perspectives on domestic
violence. SAGE publications.

内閣府男女共同参画局 (2004) 配偶者等

からの暴力に関する調査 (概要は

[http://www.gender.go.jp/main_content/
s/framedata/link/sankaku-kaigi.htm](http://www.gender.go.jp/main_contents/framedata/link/sankaku-kaigi.html)
l で閲覧可能)

Rossmann, B. B. R. (2001) Longer term

effects of children's exposure to

domestic violence. In: Graham -

Bermann, S. A., Edleson, J. L. ed.

Domestic violence in the lives of

children. American Psychological

Association. pp35-65

Silvern, L., Karyl, J., Waelde, L.,

Hodges, W. F., Starek, J., Heidt, E.,

Min, K. (1995) Retrospective reports

of parental partner abuse:

Relationships to depression, trauma

symptoms and self-esteem among

college students. *Journal of Family*

Violence, 10, 177-202

Wolfe, D. A., Wekerle, C., Reitzel-Jaffe,

D., Lefebvre, L. (1998) Factors

associated with abusive

relationships among maltreated and

nonmaltreated youth. *Development*

and Psychopathology, 10, 61-85

参考にした WEB

<http://www.abanet.org/domviol/brochure>

s.html

<http://www.capsa.org/Violence/Children/>

<http://www.childrensdefense.org>

<http://www.effect.net.au/scallywags/juniul00/violence.htm>

<http://www.justice.govt.nz/pubs/reports/2002/children-dva-act/appendix>

<http://www.nceev.org/programs/safe-star/t/rochester.html>

http://www.state.ma.us/da/norfolk/family_childwitness.html

<http://www.ucsf.edu/linc/index.html>

資料1:ドメスティック・バイオレンスに関連すると考えられる子どもたちに見られる問題

注意欠陥障害	希死念慮	外傷性ストレス性障害の症状(不安、フラッシュバック、過覚醒、罪悪感、悪夢、感情の麻痺、睡眠障害)
外在化した問題	攻撃性	分離不安
アルコール乱用	薬物乱用	社会的行動・適応上の問題
怒り		対人関係において暴力を用いるという信念
行為障害		社会的スキルの欠如
動物への残酷さ		共感性が低い
破壊性		問題解決能力が低い
不服従		学校における問題
反抗		成績
内在化した問題		非行
不安		無断欠席
抑うつ		その他の問題
過剰なしがみつき		暴力の世代間連鎖
恐怖		強迫観念と強迫行為
低い自己評価		身体的問題(頭痛、夜尿、不眠、潰瘍)
受動性		気むずかしい気質
悲しみ		
自責		
内気		

とびらをあげる

パパとママがけんかすることはありますか？

口げんかする

たたいたりけったりする

なんどもたたいたりけったりする

パパとママがけんかするうちほどのくらいあると思いますか？

じぶんのうちだけだと思えますか？
なんけんかに1けんぐらいとおもるか
下にかいてみましょう！

にもつをおろす

5 けん に 1 けん？

10 けん に 1 けん？

20 けん に 1 けん？

50 けん に 1 けん？

100 けん に 1 けん？

1000 けん に 1 けん？

ほんとうは、

20 けん に 1 けんはあるんだよ。

パパとママがけんかする子どものためのパンフレット

日本じゅうになんけんあるかというと
400万けんいじようあるけんになります。
すごくおおいよね。

パパとママがけんかしているうちはきみのクラスやとなりの
クラスにいるかもしれないね。

きみのうただけじゃないんだよ。

パパとママがけんかしているうちの子どもは、
「こんなのけんかぶんちだだけだ」
「だれにもわかってもらえない」
とかおもうことがおおいんだけど、
ほんとうはそうじゃないんだね。
とてもつらくていやなことかもしれないけど、
よくあることなんだよ。

だから、ほいくしよやようちえんやがっこうのせんせいも、そ
ういうことについて知っているよ。

なぜけんかがおこるのかな？
かんがえてみてみたことがありませんか？

パパやママはなんでもいいですか？
きみはどうかかんがえていますか？
したにかいてみよう！

パパやママがけんかしているのは、きみがわるいせいじゃ
ないんだよ。

たとえばなし
サリーはアンにすてきなえほんをかしてあげました。アンが
えほんをもっているのをみたジェシカは
「わたしにもみせて！」と
えほんをアンからむりやりとりました。

そしてジェシカは「なぜいつもわたしのことをじやまする
の！見せてくれないいいじゃない！」と
いってアンをたたきました。

アンもおこってジェシカをたたきました。
サリーはわるくないよね。
けんかにはジェシカとアンのおふりまいのためです。
パパとママのけんかもおふりまいのせいだよ。
けんかにはけんかしているふりまいのせいだよ。
ほかの人のせいじゃないんだよ。

たとえきみのことでパパとママがけんかを始めたとしても、それはきみのせいではありません。

「こどもがしんばいしているのがわかる。たたくのはやめてほしい。でもどうしたらいいのかわからない」

「こどものことをともしんばいしている」

「このことでこどもがかなしんでいるとおもうので、そのことをつらい」

そり言っているパパとママが多かったんだ。

パパとママのけんかは
ぼくのせいじゃない
わたしのせいじゃない！

それに、パパとママがけんかしているからといってきみのことをだいに思っていないわけじゃないんだよ。

けんかをよくするパパとママからまきました。

「ほんとうはたたくのをやめたいとおもっている。でもどうしていいかわからない」

とくにママは子どもたちのことをともしんばいしている人がおおかったよ。

けんかしても、こどものことをだいにいじにおもっているしやめたいとおもっているんだね。

でもパパとママだけではけんかをやめることができないんだね。けんかをとめることができるのは、ほかの大人だけなんだ。そしてけんかしないでたのしくらすほうほうをパパとママにおしえてくれるのも

ほかの大人だけなんだよ。

子どもは大人のけんかを止めることはできないんだ。とめるようにするとともあぶないこともあるよ。

パパとママがけんかしたときには
きみはどうしているかな？

そうだね、いろいろなやりかたがあるよ。
きみがいちばんいいとおもうやりかたがいっぱいなんだよ。
だいじなのは、きみがけがをしないこと！

きみがこわかったりかたがたりするきもちが
すこしでもすくないこと！

じぶんがあぶなくないためには
どんなことができるかな？

ほかのともだちはパパとママがけんかしたとき
どうするのきいてみました！

じぶんのへやへいってふとんをかぶる

きょうだいといっしょにいる

テレビやラジオのおどをおおきくする

となりの人はいりにいく

おじいさんやおおばあさんにきてもらう

あぶないときははいえを出る

きもちがおちつくばしよをさがしておいてそこにいく

けいさつにでんわする

ともだちかしんせきのいえにいく

だいじなおもちややほんやふくをひとつのかばんにい
れてもっていく

きもちがおちついてけんかがおわったころになってか
らいえにもどる

きみがやってみようとおもうことはありますか？

やってみようとおもうことを

下にかきだしてみよう！

だいじなのは、
じぶんでじぶんをあんぜんにしておくことだよ！

そのときはパパとママのことは
パパとママにまかせしておくかないんだよ。

つらいけど、しかたないんだ。
大人がけんかするのほ子どもでもないんだし、子どもは大人をとめることができないから。

子どもにはできなくても、
パパとママにはなしてくれれるおとなが
いるかもしれないよ。
すぐにはけんかがなくならなくても、
すこしずつパパとママがかわっていくかもしれない。

はじめにいったけど、パパとママがけんかしているうちは
すごくおおいんだよ。

そのためそうだしよまできてきているんだよ。だから
一人でかんがえこまなくていいんだよ。

それから、いやなきもち人は人にはなしてきいてもらえたら、
その分だけ小さくなくていいんだよ。

だから、
かなしかったり
さびしかったり
こわかったり
しんばいしたり
はらがたったりしたこと
ほかの人にはなすことは
とつてもだいじなことなんだ。

はなしをしてきいてもらうことで
心がかくなるんだよ。
どんなきもちになった
どんなことをはなしたいかな？
下にかいてみよう！

だれにはなしたらいいだろう？
はなしをきいてくれそうなのと、はいるかな？
おもいつくひとをみんな下にかりてみよう！

パパとママがけんかしていた子どもたちは
だれにはなしたかな？

ともだちにはなした

パパとママにはなした

おじいちゃんやおばあちゃんにはなした

おじさんおばさんにはなした

せんせいにはなした

ほけんしつのせんせいにはなした

きんじよのひとにはなした

けいさつのひとにはなした

じどうそうだんしよにでんわしてはなした

(じどうそうだんしよ: 子どものなやみをきいてくれるところ)

ふじんそうだんしよやじよせいセンターにでんわしてはなした

(ふじんそうだんしよ、じよせいセンター: ママがただか

れているときそうだんできるところ)

きみがそのひとにはなしをして、
がつかめたりいやなきもちになつたりしたら
それいじよははなさないでいいんだよ。

そういらるときはほかの人にはなしてみよう!

あいての人がうなぎなきいきいてくれて、
きみがほつとしたりはなしてよかつたとおもうなら、とてもいいサインだよ。

それだけでずいぶんらくになるよね。

それにその人は、
子どものおやがけんかしていることについて
なにか知っている人かもしれない。

ひよつとしたらその人はよくしらなくても
しっている人をおしえてくれるかもしれないよ。

つぎにだいいじなのは、いやなきもちをすこしでもかろくして
たのしくすることだよ。

パパとママがけんかしていても、
きみがたのしんだりうれしかつたりすることは
きつとあるよね。

それはとつてもだいいじなことだよ。
子どもはつらいことばつかりだと
つかれちやうよ!

たのしいことをして
げんきをださなきや！

パパとママも
きみがたのしかったりうれしかったりしたら
よろこぶよね。

それに二人ともほっとするとおもうよ。

きみがすきなことやたのしいことを
下にかきだしてみよう！

ほかのともだちはどんなことをしたかな？
えをかいいた

ともだちとおいかげっこをした

うんとはした

おおごえでうたをうった

きょうだいとあそんだ

なわとびをした

べんきょうをした

とてもはらがたつたときはひとりでふとんをたたいた
(ひとやこわれるようなものをたたいたらいけない
よ！)

ともだちとはなした

すきなマンガをよんだ

ゲームにむちゆうになった

いぬやねことあそんだ

いっしょにけんめいスポーツをした

きみがやってみようとおもうことはあるかな？

いやなまもちで

いらいらしたりむかつかついたりするとき、
からだをうごかしたり

おおごえをだすといっいね！

ドメスティック・バイオレンスを経験した
子どもたちのためのパンフレット制作班
国立肥前療養所
家族精神医学研究室内

ゆうきをだして
げんきになることをしよう！
ひとにはなしてみよう！
おなじようなともだちがたくさんいるよ！